９月１日の説教要旨　　「真理はあなたたちを自由にする」　　山本一牧師

ヨハネによる福音書8章31～38節

●今日の聖書中にある「真理はあなた達を自由にする」という言葉は日本の大学や国会図書館などにも刻まれています。一般的には知識を探求する「学問」によってこそ人は真の自由を得る、そのように受け止められているかもしれません。確かに専門的知識を追い求めることはそれぞれの分野に発展をもたらしました。しかし、同時にいかに素晴らしい科学の産物も、優秀な人材も、人間の驕り高ぶりによって悲惨な結末を迎えることもあるのです。

●欧米の教育機関では「信仰と科学 (Piety & Science)」という言葉を大切にしています。学問だけの追求ではなく、その学問に意味を与え、方向を正してしていくような敬虔とか信仰というものが教育において大切にされるべきだというのです。

●イエス様の本来の言葉は「私の言葉にとどまるならば、あなたたちは本当に私の弟子である。あなた達は真理を知り、真理はあなたたちを自由にする」です。ここでいう「真理」とはイエス様ご自身を意味しています。

今日の箇所でイエスさまは「自分はアブラハムの子孫であり、奴隷になったことはない」と言うユダヤ人に対して「自由を得ているようで、実は罪の奴隷となっているのだ」と告げられました。自分たちこそが神の民だという自負は、他者への蔑みや憎しみ、差別、驕り高ぶり、そのような感情を生み出していることをイエス様はご覧になられたのです。

●椎名麟三の「天国への遠征」という作品は、自分の「純粋さ」や「愛」や「信仰」等様々なものにより頼み、それを誇りとして生きる人間を描きます。そして、それらを誇りとする生き方が、本当の救い、天国への道への大きな邪魔をしているということを描いています。

聖書は自分の中にあるおごりやエゴからの解放と自由こそが救いであり、それを可能にするのがイエス・キリストであることを教えています。イエス様は私たちの心に愛と謙る心を与えてくださるのです。それこそが私たちを自由にする真理なのです。

●メソジストの創設者ジョンウェスレーも本当にキリストによる救いと自由を得たのは、挫折し、自らの方法論（メソッド）に誇りをもてなくなったその時でした。彼はアルダスゲートの街で「ただ一人の救い主であるキリストを信じた。」という回心を体験したのです。どこまでも自己中心的な思いを捨てきれない私たち全ての人間のために自らを捨てて十字架について下さった主イエスの愛を、ここ教会で思い起こしつつ、私達もその主の愛を胸に抱き、自由にされて生きていきたいと願います。